

【分野】 果 樹

モモの果肉障害対策

【要約】

モモの果肉障害は対策技術の組合せで大幅に抑制できます。

【背景】

近年、夏季の異常な高温や降水量の変動などにより、モモの果肉障害（赤肉症、水浸状果肉褐変症）の発生が顕著になっており、対策技術の確立が喫緊の課題となっています。

【結果】

1 機能性果実袋の開発

果実温の異常昇温による赤肉症を抑制するため、慣行の果実袋に、赤外線反射機能の高い酸化チタンを塗布した機能性果実袋※を開発しました（図1）。※特許第5877441号



図1 開発した機能性果実袋(左)

2 部分マルチ法の開発

成熟前の大雨により助長される水浸状果肉褐変症を抑制するため、主幹を中心に樹冠下4m四方に透湿性防水マルチを敷いて雨水を防ぐ部分マルチ法を開発しました（図2）。



図2 部分マルチの敷設

3 効果的な着果管理法の開発

開花の遅い果実は果肉障害が少ないため、摘蕾及び摘果時に開花が遅い結果枝基部の果実を優先して残す着果管理法を開発しました（図3）。

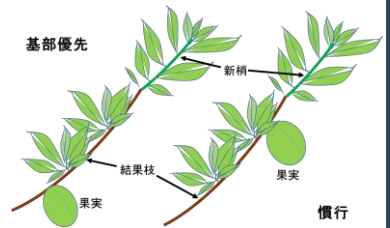


図3 基部優先着果(左)の概念図

4 エテホンの立木全面散布による熟期促進法の開発

成熟遅延による果肉障害の助長を回避するため、成熟促進効果のあるエテホン液剤の散布法を開発しました（図4）。



図4 エテホンの立木全面散布

5 組合せによる総合実証効果

上記4種の対策技術を全て組み合わせると果肉障害の発生、特に赤肉症が明らかに抑制されました（図5）。

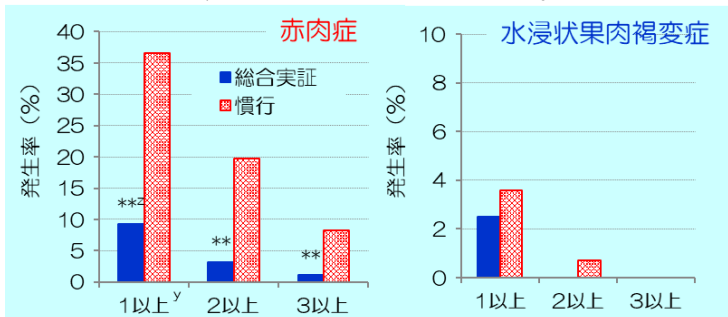


図5 4つの果肉障害対策の組合せ処理による「清水白桃」の果肉障害の発生抑制効果
***は1%水準で有意 y障害の程度(1は軽微、2は中程度、3は重度を示す)

※ 本研究の一部は、農林水産業・食品科学技術研究推進事業の一環として行いました。

担当：農業研究所 果樹研究室(086-955-0276)

研究課題名：西日本のモモ生産安定のための果肉障害対策技術の開発（農林水産業・食品科学技術研究推進事業実用技術開発ステージ）(H25～H27)
温暖化に起因する果樹類生育障害の対策技術の現地実証 (H29～H30)